

六甲山上(心経岩)コース自然観察会

～六甲山上の涼を楽しむ～

実施日：2021年7月23日

記録：2班 上山富美代

観察コース：六甲ケーブル山上駅 ～ 神戸ゴルフ倶楽部前 ～ ヴォーリズ山荘前 ～ 六甲オルゴールミュージアム前
～ 心経岩・雲が岩 ～ 六甲ガーデンテラス ～ 六甲ケーブル山上駅

◆花編



フサフジウツギ (ゴマノハグサ科)

- ・花序に花が密につく
- ・葉裏に軟毛あり



センボンヤリ (キク科)

- ・閉鎖花
- ・石垣に生息



ノリウツギ (アジサイ科)

- ・ピラミッド形の円錐花序
- ・アジサイ科の中で咲くのが遅い



ミズタマソウ (アカバナ科)

- ・花弁は2個 雄しべは2個で両側に突き出る 雌しべ1個
- ・果実：堅果、かぎ状の毛が密生



ゲンノショウコ (フウロソウ科)



ノハラナデシコ (ナデシコ科)

- ・ヨーロッパ原産 帰化
- ・白い小さな斑点が特徴

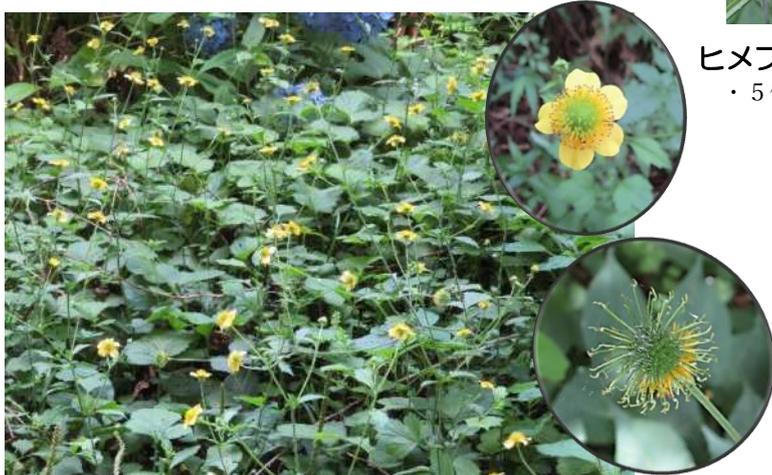


ヒメフウロ (フウロソウ科)

- ・5個の花弁に二個の筋が特徴



ホタルブクロ (キキョウ科)



ダイコンソウ (バラ科)

- ・お花畑
- ・花弁は5個、雄しべと雌しべが多数ある
- ・果実は集合果、柱頭が残りかぎ状に曲がる



アキノタムラソウ (シソ科)

- ・青紫色の唇形花を数段輪生する
- ・葉：対生で奇数羽状複葉



ハエドクソウ (ハエドクソウ科)

- ・蕾は上を向き、開花すると横を向き、果期には下を向く
- ・下から順次咲く



キクバヒヨドリ (キク科)

- ・枝先に散房状の花序
- ・白色の頭花を多数つける
- ・葉は対生で3深裂



スズサイコ (キョウチクトウ科)

- ・蕾が鈴に似ていてミシマサイコに似る
- ・花は早朝に開き日が当たると閉じる
- ・神戸市 準絶滅危惧種 (撮影：7/13)



- ・早朝に訪れると見られるようだ (参照：「関西の花」より)



コマツナギ (マメ科)

- ・葉腋に総状の花序
- ・下から咲きあがる
- ・茎や葉にまばらに伏毛



ヤマクルマバナ (シソ科)

- ・茎上部の葉腋に白～淡紅紫色の唇形花を仮輪生させる



キクバヤマボクチ (キク科)

- ・蕾



ヤブカンゾウ (ワスレグサ科)

- ・雄しべと雌しべが弁化して八重咲きになる



オニドコロ (ヤマノイモ科)

- ・雌雄異株 雄花序は直立 (参考：雌花序は垂れ下がる)



キツリフネ (ツリフネソウ科)

- ・花柄の先に花を下げる 萼片は3個、後方の1個が舟形になり、距の先は巻き込まない



オコトラノオ (サクラソウ科)

- ・花序を虎の尾に見立てたもの
- ・茎の先に総状花序を出し白い花を多数つける



ホツツシ (ツツジ科)

- ・円錐花序を穂のように上向きにつける
- ・ツツジ科の中で花期が最後の種
- ・赤葉の個体は紫外線対策か



チダケサシ (ユキノシタ科)

- ・花序は細長く円錐状、側枝は短く斜上
- ・小葉は卵形や倒卵形で先は尾状にとがらない



アカショウマ (ユキノシタ科)

- ・花序は広い円錐状、側枝は長い
- ・小葉の先は尾状に鋭く尖り重鋸歯がある



ヤマホロシ (ナス科)

- ・花冠は深く5裂し裂片は反り返る
- ・花喉部に緑色の斑紋がある
- ・ほとんど無毛
- ・兵庫県・神戸市 準絶滅危惧種



〈参考〉ヒヨドリジョウゴ (ナス科)

- ・ツル性 全体に軟毛密生
- ・撮影：7/13



クサレダマ (サクラソウ科)

- ・円錐花序に黄色の花をつける
- ・植栽されていた



ヒヨドリバナ (キク科)



ムラサキシキブ (シソ科)



ヤマトウバナ (シソ科)

◆果実編



ミズキ (ミズキ科)

- ・クマノミズキに比べ一か月ほど早い



ケヤマハンノキ (カバノキ科)

- ・前年の果穂と本年の果穂



ヒヨドリショウゴ (ナス科)
 ・花確認後、10日後には果実を確認



ウツギ (アジサイ科)
 ・蒴果 先端に花柱が残る



ヤブウツギ (スイカズラ科)
 ・若い果実



マクミ (ニシキギ科)
 ・果実は4裂する



タンナサワフタギ (ハイノキ科)



ヤブデマリ (レンブクソウ科)
 ・果実は核果
 ・葉柄が長い、葉は楕円形～円形



オオカメノキ (レンブクソウ科)
 ・果実は核果
 ・葉はほぼ円形、本属中で最大級になる
 基部が明らかに湾入し心形になる



バニドウダン (ツツジ科)
 ・果実は蒴果円柱形、熟すと上向きになる



クサアジサイ (アジサイ科)
 ・葉は互生
 ・花が終わり(装飾花が少し残る)、果実がみえる



コアジサイ (アジサイ科)



カンザシギボウシ (キジカクシ科)

〈参考〉花の撮影：7/13

- ・花を花茎の先に固まってつける様子を簪に喩えた
- ・兵庫県・神戸市 準絶滅危惧種

◆その他



ミズキ (ミズキ科)

- ・枝を水平方向に面状に広げ、いくつもの階層状の樹形になる



フタバアオイ (ウマノスズクサ科)

- ・徳川家の紋として有名
- ・茎は地をはって伸び、先に2個の葉が対生する



《繁みの中で
8種のツル性植物確認》

- ・ツルウメモドキ
- ・アケビ
- ・アオツツラフジ
- ・ボタンツル
- ・ムベ
- ・センニンソウ
- ・ガガイモ
- ・スイカズラ



カワラナデシコ (ナデシコ科)

- ・蕾がついている
- ・神戸市 準絶滅危惧種



マタタビ (マタタビ科)

- ・果実の虫こぶは木天蓼という生薬になる (冷え性・神経痛)



キッコウハグマ (キク科)

- ・茎は高さ10～30cm程になる
- ・新旧が見られた



アオハダ (モチノキ科)

- ・短枝が発達し、4～5枚の葉は束生することが多い



アマチャツル (ウリ科)

- ・鳥足状複葉
- ・葉の表面は柔らかい刺と毛におおわれている
- ・葉をかむと、かすかな甘みがあった



ヤブガラシ (ブドウ科)

- ・鳥足状複葉
- ・葉表面には毛はない



ホドイモ (マメ科)

- ・奇数羽状複葉



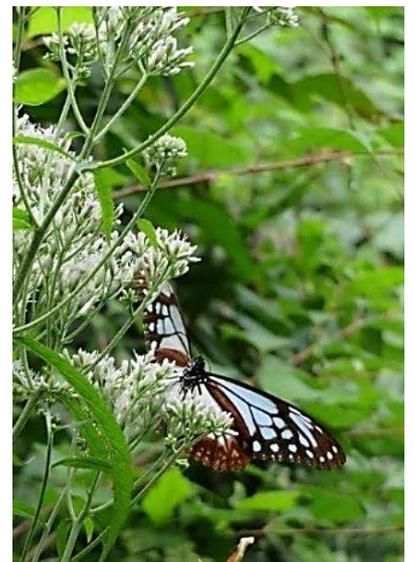
キンモンガ



オオキンカメムシ



ジャコウアゲハ



ヒヨドリバナの蜜を吸う
アサギマダラ



ヒグラシだろうか
鳴き声が BGM の
観察路



心経岩



六甲山上から下界を遠望